

外国人在留支援センター（FRESC）ヒアリング実施報告【令和4年4月20日実施】

外国人在留支援センター（FRESC）とは…

多文化共生社会の実現のための環境整備を進めていくことを目的として、令和2年7月にJR四ツ谷駅前にて開所。4省8機関（出入国在留管理庁、東京出入国在留管理局、東京法務局人権擁護部、日本司法支援センター、東京労働局外国人特別相談・支援室、東京外国人雇用サービスセンター、外務省ビザ・インフォメーション及び日本貿易振興機構）がワンフロアで、在留資格の更新・変更、労働基準・労働安全衛生、VISAの取得・入国手続き、法律トラブル等に関する相談、高度外国人材・留学生の受入れ促進・就職支援の受入れ促進等を行っている。ヒアリングは東京出入国在留管理局の在留支援部門に実施した。

■FRESCでの相談（支援）の状況と傾向

- ・FRESC ヘルプデスクでは、新型コロナの影響で困っている外国人のための電話相談を20言語(ロシア語、ウクライナ語含む)で対応している。
- ・相談時に通訳を必要とする人の割合は約30%で、そのうち英語が51%、中国語が34%。ホームページが日本語の他、英語と中国語のみに対応しているため、英語と中国語での相談が多いと推測される。多言語対応への備えは必要。
- ・属性による相談の傾向については分析したことがないため、分からないが、(以下主観的な意見として)国民性による影響は有り得る。国籍・在留資格を見れば傾向が見えてくる可能性はある。
- ・東京都の在留資格別・国籍別のデータと、武蔵野市の在留資格別・国籍別のデータを併せて分析することで、傾向がみえる可能性はある。

■多文化共生推進プランを策定するうえで注意・配慮すべきこと

- ・言葉をわかりやすく説明すること。やさしい日本語を使う等、外国人も読める形で公表することが求められる。
- ・やさしい日本語には正解がない。やさしい日本語を使う相手や状況によって、使い分けていく必要がある。やさしい日本語は子どもや高齢者の方にも有効。
- ・ある自治体は、受入れと共生は車の両輪のようなもので、その好循環をつくっていくべきと言っている。外国人を社会の構成員として受け入れる姿勢が必要。